

インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症 予防接種のお知らせ

高齢者

	インフルエンザワクチン	新型コロナワクチン
対象者	・奥出雲町に住所のある65歳以上の方 ・奥出雲町に住所のある60歳以上65歳未満で、心臓、腎臓、もしくは呼吸器の機能又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に重い障害を有する方（接種の際、身体障害者手帳を医療機関にご提示ください。） ・奥出雲町に住所のある生活保護受給世帯の方	
実施期間	令和8年10月1日から 令和9年1月31日まで	令和8年10月1日から 令和9年3月31日まで
自己負担額	2,000円	6,000円
回数	1回	1回（初回接種がまだの方も接種可能）
実施医療機関	町立奥出雲病院、加藤医院、千原医院、井上医院、石原医院分院、町立馬木診療所、横田診療所（インフルエンザのみ）、町外医療機関（町が委託している医療機関） ※町外の医療機関で接種を希望される方は、事前にご相談ください。	

期間外に接種する場合は、
助成の対象外となります。

子どものインフルエンザ予防接種

対象者	奥出雲町に住所のある生後6か月から今年度18歳になる方（平成20年4月2日以降生まれの方）	
実施期間	令和8年10月1日から令和9年1月31日まで	
自己負担額	無料	
回数	6か月以上13歳未満：2回	13歳以上：1回
実施医療機関	町立奥出雲病院、加藤医院、千原医院、井上医院、石原医院分院、横田診療所（高校1年生～3年生相当）	
その他	・経鼻インフルエンザワクチンは、助成の対象外となります。 ・上記の実施医療機関以外で接種された方は、申請により接種費用の払い戻しをします。申請方法など、詳しくは町ホームページをご確認ください。	

期間外に接種する場合は、
助成の対象外となります。

予防接種の受け方

1. 希望される医療機関に早めに予約をしてください。

・医療機関によって、使用するワクチンや接種日時等が異なりますので、直接医療機関にお問い合わせください。

2. 接種当日は、以下の物をお持ちください。

- ・住所、氏名、生年月日が確認できるもの（マイナンバーカード、資格確認書、子ども等医療費受給資格証等）
- ・母子健康手帳 ※子どものみ

3. 医療機関にある予診票をお使いください（個別に送付しません）。

・デジタル予診票（母子モ）は、町立奥出雲病院、井上医院、石原医院分院のみ使用できます。
※子どものみ

※詳しくは、町ホームページをご覧ください。

（お問い合わせ）奥出雲町役場 健康福祉課 健康づくり推進1係・2係 電話：54-2781



エココーナー

遠い未来の話ではありません 24年後、あなたや子供や孫は何歳になっていますか？

2050年8月、40度以上の酷暑日がのべ157地点に上り、午前11時から午後3時は「外出自粛令」が出される。今、気候変動ニュースで、巨大な氷の塊が崩れ落ち海に沈んでいくのを見ても、私たちはどこかで「気候変動は、遠い世界の出来事」と感じるかもしれません。

しかし、その影響はすでに私たちの身近なところで現れています。去年よりも酷暑日が続く、観測史上最高気温が更新されています。子どもたちが外で遊びにくくなった、野外での仕事が危険になった、野菜の値段が上がっている、と変化を実感している人々も多いのではないのでしょうか。世界の平均気温は上昇を続けており、現在パリ協定の目標値1.5℃を超え、温暖化の影響はかつてないスピードで深刻化しています。特に、子どもや高齢者、光熱費負担が大きい世帯ほど、より重く猛暑被害を受けやすいとされています。

24年後は決して遠い未来ではありません。今の暮らしの延長上にあります。気候変動の進行を抑えるために私たちにできることは、地球温暖化を止めること、つまり二酸化炭素（CO₂）排出量が出ないことが当たり前になる生活と社会にシフトすることです。まずはCO₂排出量を減らすことが重要です。また、地域のメリットにつながる再生可能エネルギーを増やすことで、CO₂を排出しにくい社会の仕組みを作ることが大切です。電気の作り方、移動の仕方、ものづくりの方法、あらゆる仕組みを変えることで、よりよい未来を選ぶことができます。

遠い未来の話ではありません。今を生きる私たちの話です。



IPCCのデータに基づく2050年の天気予報動画をご覧ください。



知ってる？

奥出雲の 世界農業遺産 祝認定1周年！

昨年8月26日に「たたら製鉄を再適用した奥出雲地域の持続可能な水管理及び農林畜産システム」として、世界農業遺産に認定され、1周年を迎えました。
このコーナーでは、世界農業遺産がどのように地域の暮らしに密着しているか、農業遺産に関わる人にスポットを当て紹介していきます。

今月のテーマ

おおろ あたごまつり 大呂愛宕祭



地域で受け継がれる伝統行事も、奥出雲の「農業遺産」のひとつです。大呂愛宕祭は、たたら製鉄の歴史を今に残す、鳥上地区大呂地内でおよそ300年以上の歴史を持つ伝統的な夏祭りです。毎年8月24日、華やかに飾られたどう屋台や山車行列が大呂地内を巡行し、大呂愛宕大権現を目指します。どう屋台では、華やかな衣装を身にまとった子どもたちが毎日練習したお囃子の演奏を披露。また、趣向を凝らし、台の人形劇が賑わい、いっしょに役を買って入ります。

今月の農業遺産人

令和8年度 大呂愛宕祭頭屋 安部治美さん

とにかく続けること。 形を変えても、 文化をつないでいきたい



世界農業遺産クイズ

Q. 奥出雲地域が世界農業遺産に認定されたのは、中国地方で何番目？

- A. 1番目
- B. 2番目
- C. 3番目

※答えは裏表紙で！

Q 愛宕祭を開催するにあたって大切にしていることは？
一番大切なのは、とにかく続けること、そして文化を継承していくことです。昭和40年代には人数が足りず、10年弱ほど山車やねぶたをやめていた時期もありました。人も減っていく中で、労力のかけ方などを時代に合わせながら続けていくことが大切だと思っています。

Q これからも続けていくために、伝えたいことは？
昔の形をそのまま残すだけではなく、時代に合わせて変えていくことも必要です。昔はお囃子の役割も男女で分かれていましたが、今では地元の子どもたちが男女問わず担っています。段々と継続することが難しい時代になっていますが、これからも献灯を続けていきたいです。

